

きじむんの どう〜ちゃいばにい〜 文庫紹介編

さかまき ほうれい 第3回：阪巻・宝玲文庫

キーワード：フランク・ホーレー 阪巻駿三

ぐすーよー、スーマンボースー（小満・芒種）^注ぬしちないびーたん。（みなさま、小満芒種の季節になりました。）今月は、阪巻・宝玲文庫についてご紹介しますよ〜 読んでね〜

※注 二十四節気のうち、「小満」は5月21日頃、「芒種」は6月5日頃をさす。沖縄の梅雨を意味する言葉。

●阪巻・宝玲文庫とは

イギリス人ジャーナリストのフランク・ホーレー氏（1906-1961）が収集した琉球・沖縄関係の資料に、ハワイ大学で教授を務めた阪巻駿三氏（1906-1973）の資料を合わせてできた文庫です。点数は5千点以上、そのうちの2千点以上がホーレー氏のコレクションです。

ホーレー氏は、東洋文化への強い関心から、蔵書印にも「宝玲文庫」を用いています。また、1400～1960年代の琉球・沖縄関係資料が多数収蔵されている点も特徴的です。現在、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館が所蔵しています。

●フランク・ホーレー（Frank Hawley）

英国ダーラム州ノートンという所に生まれたホーレーは、リバプール大学で語学を学び、1931（昭和6）年、東京外国語学校英語教師として採用されまし



阪巻駿三
（ハワイ大学所蔵）

た。日本滞在中、1万6千冊以上の和書・洋書・漢籍を収集しましたが、太平洋戦争が起こると、ホーレーは逮捕拘留され、蔵書は接収、散逸してしまいます。その後、英国へ強制送還されますが、1946（昭和21）年、ザ・タイムズ東京支局の特派員として再び来日。55歳で亡くなるまで、京都山科で暮らしました。

●阪巻駿三（さかまき しゅんぞう）

阪巻は、1906（明治39）年、移民の子としてハワイに生まれました。学生時代は、同志社大学の奨学金フェローとして、同大で英語を教えながら、日本の歴史について学んでいます。その後コロンビア大学大学院（日本史）で学位（Ph.D.）をとり、1954（昭和29）年ハワイ大学教授に就任しました。1961（昭和36）年、ハワイ大学夏期大学学部長と

なり、ホーレーの蔵書をホーレー文庫として保存することに力しました。

右の写真は、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の阪巻・宝玲文庫を、琉球大学附属図書館がデジタル化し、公開したアーカイブ資料の一つです。「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」のページでみてね〜（NK）

参考文献：横山學『書物に魅せられた英国人 フランク・ホーレーと日本文化』2003/ 竹中正夫『同志社とハワイー戦前の交流の軌跡をたずねて〜』『同志社アメリカ研究』22号 1986/琉球大学附属図書館「ハワイ大学マノア校所蔵 阪巻・宝玲文庫について」2014



『琉球草木写生 下』HW665(2) P5

薬草の地黄（ジオウ）だよ〜。この本、可愛い花の絵いっぱいみれるよ!!